

令和7年
2025年

9月22日
月曜日

第11798号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6か月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



- ▶ 令和7年10～12月期の配合飼料供給価格、550円値下げ…………… P2
- ▶ [鶏肉輸入予測数量] 10月は計4万7250tで14・2%減…………… P2
- ▶ 25/26年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA報告…………… P3
- ▶ 食肉加工品輸出協議会がフィリピンからディストリビューターを招へい…………… P3
- ▶ [牛・豚肉の輸入数量予測] 10月牛肉は8・5%増、豚肉は12・6%減か…………… P3
- ▶ USMEFがアメリカンミート・トレードセミナー開催② 牛の生産は27年から緩やかに回復か…………… P4～5
- ▶ 東京食肉市場まつりが10月18・19日に開催、推奨銘柄は「鹿児島黒牛」…………… P5
- ▶ [USDA需給予測] 25年食肉生産総量年計は0・8%減、26年は1・0%増…………… P6
- ▶ 9月の食品価格動向調査、国産牛は27円高、豚は3円高…………… P7
- ▶ [配合飼料生産量・7月] 計190万1650tで前年比0・5%減…………… P7
- ▶ JBS Australia、グレインフェッドビーフの2プログラムが豪州で表彰される…………… P8
- ▶ 【東京食肉卸売市場】牛はもちあい、豚は弱もちあい…………… P9
- ▶ 【大阪市食肉卸売市場】和牛4等級は安定、豚出荷が増えても高値…………… P9
- ▶ ロッテリア、「ロッテリアの夜バーガー」新登場…………… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 19日…………… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 19日…………… P11

注目のヘッドライン

令和7年10～12月期の配合飼料供給価格、550円値下げ

JA全農は19日、令和7年10～12月期の配合飼料供給価格を公表。飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、同年7～9月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約550円の値下げを決定した。

…詳細はP2

[鶏肉輸入予測数量] 10月は計4万7250 tで14・2%減

…詳細はP2



多岐にわたる情報を網羅 食肉通信社

銘柄牛肉 ガイドブック



'25 **380** ブランド以上 B5判/258頁 定価**2,500円** **新刊**

令和7年10～12月期の配合飼料供給価格、550円値下げ

JA全農は19日、令和7年10～12月期の配合飼料供給価格を公表。飼料情勢や外国為替情勢を踏まえ、同年7～9月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約550円の値下げを決定した。なお、改定額は地域別・畜種別・銘柄別に異なる。飼料情勢は次の通り。

とうもろこしのシカゴ定期は、6月上旬には440セント／ブッシェル台で推移していたが、米国産地で生育に適した天候が続いたことや、8月12日米国農務省発表の需給見通しで米国産とうもろこしの単収や作付面積が市場予想を上回り生産量が大幅に増加する見通しとなったことなどから、8月中旬には380セント／ブッシェル台まで下落した。その後、輸出需要が好調であることなどから、現在は420セント／ブッシェル前後で推移している。今後は、米国産新穀の豊作が期待されるものの、収穫期の天候に左右される相場展開が見込まれる。

大豆かすのシカゴ定期は、6月上旬には320ドル／トン台で推移していたが、6月13日に米国政府が事前予想を上回るバイオディーゼル使用義務数量案を発表したことにより副産物である大豆かすの発生量が増加するとの見込みなどから、6月下旬には300ドル／トン前後まで下落した。その後、8月12日米国農務省発表の需給見通しで米国産大豆の生産量が市場予想を下回ったことなどから上昇し、現在は310ドル／

トン前後で推移している。国内大豆かす価格は、シカゴ定期の下落などから値下がりが見込まれる。

海上運賃米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、5月には47ドル／トン前後で推移していたが、6月に中東情勢の緊迫化を受けて原油相場が高騰したことや、航海日数の長い中国向け南米産大豆の輸出が増加し、船腹需給が引き締まってきたことなどから上昇し、現在は59ドル／トン前後で推移している。今後は、北米産新穀や石炭の荷動きが活発になる見通しであることなどから、海上運賃は堅調に推移するものと見込まれる。

外国為替は、6月上旬には143円台で推移していたが、米国でインフレ傾向が継続していることや日銀が利上げに慎重な姿勢を示していることなどから、日米金利差の早期縮小見通しが後退し、8月初旬には一時150円台まで円安が進んだ。その後、8月に発表された米国雇用統計の結果が市場予想を下回ったことなどから反転し、現在は148円前後で推移している。今後は、日米の金融政策の動向などに左右される相場展開が見込まれる。

以上から、外国為替は円安となるものの、シカゴ定期の下落によりとうもろこしや大豆かすの価格が値下がりとなることなどから、7年10～12月期の配合飼料価格は前期比値下げとなる。

【鶏肉輸入予測数量】10月は計4万7250tで14・2%減

日本食肉輸出入協会は19日、鶏肉輸入動向検討委員会を東京都内で開催し、8～10月の鶏肉輸入数量を予測した。それによると、8月は計5万2千t(8・3%減)で、ブラジルが3万9400t(5・7%減)、タイが1万2千t(14・5%減)、米国が550t(31・1%減)、その他の国が50t(53・3%増)

9月は計5万7830t(17・7%増)で、ブラジルが4万3千t(30・5%増)、タイが1万4千t(8・4%減)、米国が780t(10・1%減)、その他の国が50t(約2・1倍増)。10月は計4万7250t(14・2%減)で、ブラジルが3万3500t(22・8%減)、タイが1万3千t(27・5%減)、米国が700t(24・0%減)、その他の国が50

t(39・8%減)と予測している。

鶏肉の輸入については、国内の的外食、総菜を含めた中食などの堅調な需要、鶏肉の価格優位性などに支えられ堅調に推移している。その中で、国産鶏肉の高値傾向などを背景にタイ産ムネへの輸入需要が続いている。また、タイ・カンボジア国境紛争による大量のカンボジア人労働者の帰国が鶏肉生産分野においても影響しているもようで、工場の稼働率低下、生産遅延などの懸念が生じている。その他、倉庫におけるタイトな庫腹状況は現在も続いている様子で、高病原性鳥インフルエンザの国内外での発生などと共に、引き続き動向を中止していく必要があるとしている。

25/26年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA 報告

農水省がまとめた米国農務省穀物需給報告(現地時間12日)によると、2025/26年度の世界の穀物全体の需給は、生産量が29億3020万t(前年度比2・7%増)、消費量が29億3314万t(1・7%増)、期末在庫量が7億6130万t(0・4%減)を見込んでいる。

品目別では、小麦の生産量は8億1620万t(1・9%増)、消費量は8億1456万t(0・7%増)、期末在庫量は2億6406万t(0・6%増)を見込んでいる。価格は8月に入り、北半球における冬小麦の収穫進展などを受けて4ドル/bu台後半まで値を下げたが、ドル安やロシアおよびウクライナの緊張の高まり等を受けて値を上げ、8月末現在、5ドル/bu台前半で推移。

とうもろこしの生産量は12億8658万t(4・7%

増)、消費量は12億8936万t(2・3%増)、期末在庫量は2億82140万t(1・0%減)を見込んでいる。価格は8月に入り、米国農務省需給報告における米国の生産量の大幅な上方修正などを受けて3ドル/bu台半ば近くまで値を下げたものの、米国産の堅調な輸出や米国中西部における病害の懸念等を受けて値を上げ、8月末現在、3ドル/bu台後半で推移。

大豆の生産量は、4億2587万t(0・4%増)、消費量は4億2389万t(3・3%増)、期末在庫量は1億2399万t(0・3%増)を見込んでいる。価格は8月に入り、米国農務省需給報告における米国の生産量の下方修正や大豆油の上昇などを受けて値を上げ、8月末現在、10ドル/bu台半ばで推移。

食肉加工品輸出協議会がフィリピンからディストリビューターを招へい

食肉加工品輸出協議会(協田暁夫会長)は10月15日から18日の4日間、一般社団法人日本畜産物輸出促進協会の委託により、フィリピンからディストリビューターなど(7社、15人)を招へいするイベントを開催する(12会員参加)。日本産食肉加工品の輸出は比較的規制の緩い香港などを除いて、2国間協定が締結されていない国・地域へは、現地展示会へのサンプル輸出ですらかなわないのが現状となっている。そこで、2国間協定が締結されていないが個別商品の承認が得られ

ば輸出が可能な国・地域への輸出を促進するため、今回は輸出先として有望なフィリピンの企業の中で、日本産食肉加工品の輸入に関心のある現地ディストリビューターなどを日本へ招へいする。

期間中は、高品質、安全の信頼性を確保する洗練された工場視察や、輸出希望商品を実際にみて食べてもらう場として、懇親商談会を設け意見交換を行い、輸出の促進・拡大を図る。併せて、日本産食肉加工品統一ロゴマークの普及を推進する。

【牛・豚肉の輸入数量予測】 10月牛肉は8・5%増、豚肉は12・6%減か

農畜産業振興機構は19日、国内の主な輸入事業者で構成する牛肉および豚肉輸入動向検討委員会を開き、8~10月の牛肉と豚肉の輸入数量を予測、公表した。

それによると牛肉輸入量は、国内需要が低調にある中、為替相場の高止まりなどから、9月は冷蔵品が1万3500t(12・2%減)、冷凍品は米国産や豪州産の増加が見込まれることから2万5700t(12・9%増)となり、合計3万9200t(2・7%増)になると予測。10月は冷蔵品が1万4千t(10・7%減)、冷凍品が2万

6200t(7・1%減)となり、合計4万200t(8・5%減)になると見込む。8~10月の3カ月平均は4万900tと前年同期を6・4%下回ると予測している。

豚肉輸入量は、国内の輸入品在庫が多いことから、9月は冷蔵品が2万9100t(3・9%減)、冷凍品が4万6300t(4・3%減)で、合計7万5400t(4・2%減)と予測。10月は冷蔵品が3万200t(11・6%減)、冷凍品が4万5600t(13・2%減)で、合計7万5800t(12・6%減)と予測。3カ月平均は7万5200tと前年同期を9・5%下回ると見込んでいる。

USMEF がアメリカンミート・トレードセミナー開催② 牛の生産は 27 年から緩やかに回復か

米国食肉輸出連合会(USMEF)の「アメリカンミート・トレードセミナー2025」において、加藤悟司ジャパンディレクター(写真)は、米国の食肉市場の最新動向について次のとおり講演を行った。

USDAによると、2025年の米国の牛肉生産量は前年比3・9%減と、やや減少する見込みであり、26年はそれからさらに1・8%の減少を予測。一方、輸入量については24年が24・4%増、25年も13・8%増と見込んでおり、米国内の牛肉需要は全く衰えておらず、堅調に推移していることがうかがえる。特に赤身肉の需要は非常に高い。豚肉については、25年の生産量は0・2%と微減するが、26年は2・3%増としており、豚肉の生産は比較的順調な推移が見込まれる。穀物生産については、干ばつが改善されていることが大きく影響しており、25～26年の生産量は増加する予測だ。特にとうもろこしの生産量が増加することにより、25～26年は8・3%増を見込んでいる。飼料となる穀物の生産量が増加することで、生産者が飼養頭数を増やすマインドになっていくと思われる。

牛の飼養頭数は6年連続で前年から減少傾向となっており、今年1月1日時点では前年比0・6%減の8670万頭となっている。牛肉生産量は23年に減少してから24年はほぼ横ばいだったが、25年は約3・9%減少する予測となっている。

牛群の再構築はまもなく始まると予測されているが、再構築が始まってもすぐに牛肉の生産量が増えるというわけではないので、26年も1・8%減少する予測だ。27年からは生産量は緩やかに回復していくと予測されている。枝肉重量は右肩上がりで推移しており、24年は931ポンドと、記録的な枝肉重量となっている。飼養頭数が減少していても1頭当たりの重量が増えているので、飼養頭数の減少に比例して生産量が減っているわけではない。

また、グレーディングが向上しており、プライムの発生率は25年は11・4%の予想。13年はわずか3・7%であり、大きく伸長している。さらにチョイスの発生率も上昇しており、25年は72・8%となる見込み。アメリカンビーフの品質は大きく向上している。要因としては飼料の効率的な給与、品種改良、さらにアンガス種への



シフトなどが挙げられる。

一方、ここ数年の供給量が^{ひっばく}逼迫していることから、生体価格は過去最高水準で推移。直近のデータでは、昨年よりも3割以上の上昇であり、最高値を更新した。カットアウト価格も生体価格に比例し、記録的な高値が続いている。カット別に直近の価格をみると、チョイスカットアウト、リブ、チャック、ラウンド、ロインなど、その全てが2～3割上昇。加えて円安もあり、日本に入ってくる時にはかなり高い状況が続く。

豚の飼養頭数は安定的に推移しており、25年も前年比0・3%増の予測だ。1腹当たりの産子数をみると、25年は1回の出産で11・75頭の小豚を出産。年々産子数が増えており、生産効率も向上している。豚肉の生産量は飼養頭数が安定的に推移していることに加え、牛同様に飼料の効率的な給与や品種改良などにより、枝肉重量が増えていることも相まって増加。25年は微減の予測だが、26年は2・3%増の予測であり、豚肉については潤沢な供給量が期待できる。

カットアウト価格については、特にベリーの価格が全体をかなり押し上げている。ベリーは前年比26%高、他の部位も数%ずつ上がっているが、ロインについては3%安。USMEFとしてもメニュー提案なども含め、日本市場に向けてさらに多様なロインの提案を行っていきたい。

USMEFでは26年の戦略として、厳しい環境の中、価格が高くても選んでもらえるようなアメリカンミートの強みを訴求していく。まず、ビーフグレーディングシステムの訴求であり、さらにアメリカンバーベキュー(BBQ)の提案だ。スモークBBQやスローBBQなど、米国ならではのBBQを地道に提案し続けていくことで、アメリカンBBQの裾野拡大につなげる。外食産業

へのサポートもさらに強化。もちろん、小売については引き続きサポートさせていただくが、外食産業へもさらに強力で提案をさせていただく。最近では個々の企業に向けたワークショップ、メニュー提案や展示会などに積極的に取り組んでおり、今後も継続していく。さらにバラエティーミートについても積極的に提案していきたい。

USMEFでは今年6月、約2千人の消費者を対象に調査を実施。アメリカンビーフのプライムを知っているかきいたところ、認知度は9%であり、チョイスは6%だった。日本の消費者はアメリカンビーフにグレーディングがあることを知らない人が多く、例えば日本の和牛の格付制度と比較すると、まだまだ知られていない。こ

れを上げていくことで、アメリカンビーフの高い品質が消費者に伝わると考えており、継続して訴求していきたい。

なお、インディアナ州で毎年開催されている「ワールドフードチャンピオンシップ」という大会が今年も10月に開催されるが、今回日本から2組が出場する。1組は浜松のBBQレストラン「The Smoke Club」であり、今年日本で行われた大会で優勝し、出場権を獲得。もう1組は「Wagyu Boys」であり、実際に昨年の大会に出場し、9位に入賞した経験を持つ。日本にもアメリカンBBQが大好きでこだわっている人が確実にいるので、そういった方々をサポートしながら、日本でアメリカンBBQを盛り上げていきたい。(連載続く)

東京食肉市場まつりが 10月18・19日に開催 推奨銘柄は「鹿児島黒牛」

「東京食肉市場まつり2025」(主催＝一般社団法人東京食肉市場協会▷共催＝東京都▷協賛＝鹿児島県、鹿児島県経済農業協同組合連合会、東京食肉市場まつり2025鹿児島県実行委員会、鹿児島県黒牛黒豚銘柄販売促進協議会▷後援＝農水省、公益社団法人日本食肉協議会、独立行政法人農畜産業振興機構)が10月18・19日の2日間、同市場内で開催される。同イベントは例年、都内や近県から多くの来場者が訪れる人気イベント(写真は昨年の様子)。今年で44回目の開催であり、国内産の牛肉・豚肉の消費拡大と、市場の存在についての認知と役割の理解促進、“ブランド牛は、おいしくて安心”のイメージ確立を目的に市場を年に一度だけ特別に開放し、開催している肉のフェスティバルだ。

今回の推奨銘柄牛は「鹿児島黒牛」。当日は「鹿児島黒牛」と「かごしま黒豚」のしゃぶしゃぶやモツ煮込みの無料試食が行われるほか、「鹿児島黒牛ステーキ重」のキッチンカーも登場する。場内では「鹿児島黒牛」をはじめとした国内産牛肉・豚肉と食肉加工品の特別販売を目玉に、鹿児島県の物産販売のほか、世界の屋台料理コーナー、輸入雑貨や革製品などの販売コーナーに加え、各種ステージイベントも予定。鹿児島県の魅力を発信するPRコーナーに、元サッカー日本代表の前園真聖さん、北京五輪競泳メダリス



トの宮下純一さんがそれぞれ特別ゲストとして出演。さらに“肉の求道者”小池克臣さんによるトークショー「肉バカ 小池の和牛大学」なども行われるなど、家族で一日楽しめる盛りだくさんのイベントが用意されている。入場無料。

[USDA 需給予測] 25 年食肉生産総量年計は 0・8%減、26 年は 1・0%増

米国農務省(USDA)は現地時間18日、食肉などの需給予測(表参照)を発表した。それによると、2025年の食肉生産総量は前年割れの1068億1200万ポンドとされている。食肉別にみると、牛肉の年間生産量は下方修正されて258億2600万ポンド(前年比4・3%減)、豚肉は同じく下方修正されて275億6700万ポンド(0・8%減)、ブロイラーは上方修正で479億2500万ポンド(2・0%増)。1～3月の食肉生産総量は263億6900万ポンド(前年同期比0・6%減)、4～6月は263億9300万ポンド(0・9%減)、7～9月は266億8千万ポンド(1・3%減)、10～12月は273億7100万ポンド(0・2%減)と、いずれも減少が予測されている。

26年の総量は1079億300万ポンド(1・0%増)。1

～3月は265億5900万ポンド(0・7%増)で、4～6月は265億2900万ポンド(0・5%増)となっている。

米国における7月の牛肉輸出量は2億1100万ポンドで、前年比では約19%減となった。輸出先の主要6カ国のうち、韓国を除く5カ国への輸出が減っており、中国との取引が激減した他、台湾も約26%減、メキシコも約19%減と大きく減少している。

6月の豪州からの牛肉輸入量は前年同月比で35%増加するなど継続的に伸びており、今後数カ月は引き続き増加傾向で推移する可能性がある。一方、ブラジルからの輸入については、8月6日に発表された追加関税の影響で取引量が減少することが見込まれる。

米国の食肉需給予測(9月18日現地公表)

		24年	25年予測	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	26年予測	1～3月	4～6月
生産量	牛肉	26,984	25,826	6,543	6,453	6,345	6,485	25,490	6,335	6,335
	(前年比)	100.1%	95.7%	99.8%	95.4%	93.6%	94.2%	98.7%	96.8%	98.2%
	豚肉	27,789	27,567	6,956	6,706	6,620	7,285	28,380	7,045	6,840
	(前年比)	101.8%	99.2%	98.1%	99.9%	97.7%	101.1%	102.9%	101.3%	102.0%
	ブロイラー	46,994	47,925	11,565	11,885	12,300	12,175	48,300	11,800	11,950
	(前年比)	101.3%	102.0%	101.2%	102.0%	102.5%	102.3%	100.8%	102.0%	100.5%
	羊肉	134	137	34	36	33	34	132	33	32
	ターキー	5,121	4,837	1,146	1,181	1,250	1,260	5,040	1,210	1,230
合計	107,625	106,812	26,369	26,393	26,680	27,371	107,903	26,559	26,529	
(前年比)	100.7%	99.2%	99.4%	99.1%	98.7%	99.8%	101.0%	100.7%	100.5%	
市場価格	チョイス去勢牛	187.12	228.56	205.02	225.22	240.00	244.00	248.50	247.00	248.00
	(前年比)	106.6%	122.1%	113.3%	119.5%	126.8%	128.6%	108.7%	120.5%	110.1%
	生体豚	63.41	69.82	63.59	69.69	77.00	69.00	66.00	65.00	70.00
	(前年比)	108.2%	110.1%	110.2%	103.5%	117.3%	109.7%	94.5%	102.2%	100.4%
	ブロイラー	129.4	128.7	130.8	135.9	123.0	125.0	131.0	130.0	134.0
(前年比)	104.0%	99.5%	102.2%	102.9%	96.5%	96.2%	101.8%	99.4%	98.6%	
ターキー	93.7	131.5	94.8	119.3	157.0	155.0	131.3	125.0	130.0	
輸出入量	牛肉輸出	3,007	2,642	713	683	620	625	2,525	640	650
	(前年比)	99.0%	87.9%	97.3%	87.3%	84.4%	83.0%	95.6%	89.8%	95.2%
	牛肉輸入	4,635	5,364	1,482	1,463	1,270	1,150	4,950	1,350	1,275
	(前年比)	124.4%	115.7%	123.9%	144.6%	105.0%	94.4%	92.3%	91.1%	87.1%
	豚肉輸出	7,125	6,982	1,783	1,699	1,660	1,840	7,000	1,780	1,735
	(前年比)	104.4%	98.0%	98.9%	96.3%	99.0%	98.3%	100.3%	99.8%	102.1%
	豚肉輸入	1,148	1,106	280	275	275	275	1,140	290	285
	(前年比)	100.5%	96.3%	94.0%	94.5%	100.4%	96.5%	103.1%	103.6%	103.6%
	生体豚輸入	6,760	6,757	1,774	1,673	1,660	1,650	6,595	1,760	1,665
	(前年比)	100.2%	100.0%	101.5%	96.5%	103.9%	98.0%	97.6%	99.2%	99.5%
	ブロイラー輸出	6,680	6,506	1,628	1,579	1,650	1,650	6,610	1,645	1,615
	(前年比)	92.0%	97.4%	95.0%	96.8%	98.7%	96.7%	101.6%	101.0%	102.3%
	ターキー輸出	486	417	95	97	110	115	435	100	105
(前年比)	99.2%	85.8%	86.4%	81.5%	82.7%	92.7%	104.3%	105.3%	108.2%	

単位: 量は百万ポンド、価格は牛・豚は百ポンド当たりドル、家禽はポンド当たりセント

9月の食品価格動向調査、国産牛は27円高、豚は3円高

農水省大臣官房政策課食料安全保障室はこのほど、9月(8~10日)の「食品価格動向調査」(食肉・鶏卵)の調査結果を公表した。同調査は各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査を実施。価格は特売価格などを含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均となっている。

調査によると、国産牛肉(冷蔵ロース・100g)の全

国平均小売価格は854円で前月比27円高、輸入牛肉(冷蔵ロース・100g)は389円で2円高だった。豚肉(ロース・100g)は286円で3円高、鶏肉(モモ肉・100g)は151円と3円高となった。また、平年比では国産牛肉が3%高、輸入牛肉が18%高、豚肉が6%高、鶏肉が14%高となった。

大臣官房政策課食料安全保障室「食品価格動向調査(食肉・鶏卵)」による全国平均小売価格

(単位:円/100g、鶏卵は円/1パック)

調査期間	輸入牛肉 (冷蔵ロース)	国産牛肉 (冷蔵ロース)	豚肉 (ロース)	鶏肉 (モモ肉)	鶏卵 (サイズ混合・10個入)
令和6年9月 (9/8~9/10)	389	854	286	151	303
令和6年8月 (8/4~8/6)	387	827	283	148	303
令和6年7月 (7/7~7/9)	394	834	278	150	299
令和6年6月 (6/9~6/11)	390	811	274	148	301

注1:各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査。2:価格は特売価格等を含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均である。3:鶏卵は令和元年7月に「Lサイズ」から「サイズ混合」に調査規格を変更。

【配合飼料生産量・7月】計190万1650tで前年比0・5%減

農水省が19日に公表した7月の配合飼料の生産・出荷・在庫状況(速報版)によると、生産量は190万1650t(前年同月比0・5%減)、出荷量は191万2297

t(0・3%減)となった。

そのうち養鶏用をみると、成鶏は生産量が44万6421t(0・5%増)、出荷量が45万3170t(0・6%増)、ブロイラーは生産量が30万7005t(1・1%減)、出荷量が30万7422t(1・7%減)となっている。育すうは生産量が5万2319t(8・4%増)、出荷量が5万2347t(7・4%増)と前年同月を上回った。

養豚用の肉豚は生産量が18万4917t(1・5%減)、出荷量が18万7444t(1・1%減)、子豚は生産量、出荷量共に前年同月を下回った。

肉牛用は生産量が39万7238t(1・5%減)、出荷量は39万9999t(0・9%減)。肉牛用のうち子牛用は生産量、出荷量共に前年同月を下回った。

配合飼料生産・出荷・在庫状況

単位:トン、%

	区分	生産量	前年比	出荷量	前年比	当月末在庫
養鶏用	計	805,745	100.3	812,939	100.2	10,930
	育すう	52,319	108.4	52,347	107.4	1,262
	成鶏	446,421	100.5	453,170	100.6	4,685
	ブロイラー	307,005	98.9	307,422	98.3	4,983
養豚用	計	436,063	99.2	439,779	99.6	13,347
	ほ乳期	58,275	101.1	57,864	102.1	5,730
	子豚	118,643	97.9	119,921	98.0	2,472
	肉豚	184,917	98.5	187,444	98.9	3,305
	種豚	74,228	101.6	74,550	102.0	1,840
養牛用	乳牛用計	258,178	99.2	255,488	99.5	26,470
	うち子牛用	12,945	102.0	12,538	102.3	3,327
	肉牛用計	397,238	98.5	399,999	99.1	28,550
	うち子牛用	55,340	94.9	55,672	96.8	8,486

注:工場数132

JBS Australia グレインフェッドビーフの2プログラムが豪州で表彰される

グローバルに食肉事業を展開するJBSグループのJBS Australiaは、豪州最大規模のパッカーとして牛肉、羊肉の食肉加工を行っており、豪州産の多彩なブランドを展開している。このほど、その中の二つのグレインフェッドビーフのプログラムがブリスベン、メルボルン、シドニーで毎年開催される「オーストラリア・ファインフード・アワード」において表彰された。

同アワードは風味、見た目、品質などの要素について専門家の審査によって評価し、優れた食品・飲料を生産する豪州国内の生産者をたたえるもの。豪州では、各地でビーフ、ラム、チーズ、ワイン、生体ハンドリングなどさまざまなコンペティションが開催されており、そこで受賞すると、受賞メダルを公式にプロモーションで使用することが可能となり、現地では有効な販促施策となる。

今回、JBS Australiaでは、グレインフェッドビーフの部門に参加。ブリスベン、メルボルン、シドニーの3カ所の権威あるコンペティションにおいて、「Riverina Angus」ビーフプログラムが金賞を二つ、「Yardstick」ビーフプログラムが金賞を一つ、銀賞を二つ受賞した。

「Riverina Angus(リヴェリーナ・アンガス)」は、アンガス種に限定したグレインフェッドビーフ。マーブリングスコア2+、成長促進剤不使用のプログラムで、プレミアムな農産物の産地として名高い地域からのみ調達している。

今回その品質が高く評価され、シドニー・ファインフードアワードに続き、メルボルン・ロイヤルフードアワードでも金賞を受賞。リベリナ工場およびフィードロットで肥育、生産されている。

同じく「Yardstick(ヤードスティック)」ビーフは、マーブリングスコア2+のグレインフェッドビーフプログラム。豪州の各拠点工場生産されており、年間を通じて高品質なビーフを安定的に世界中の顧客へ供給している。

今回、シドニー、メルボルンでは銀賞、さらにブリスベンで開催されたロイヤル・クイーンズランド・ブラン

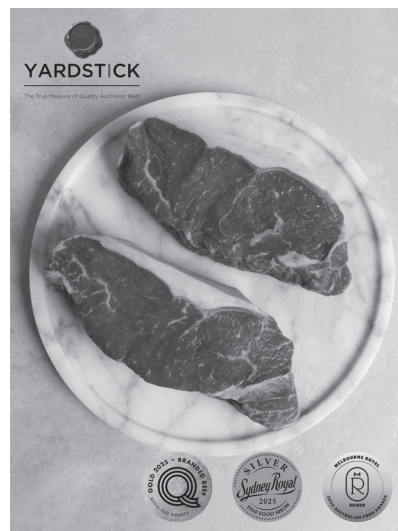
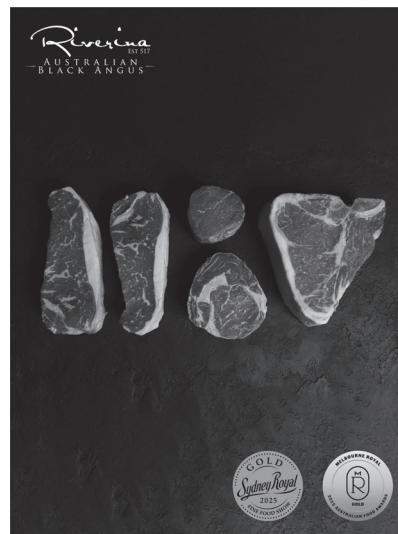
ドビーフアワードで金賞を受賞した。

MLAのエグゼクティブシェフであり、シドニー・ロイヤルファインフードアワードのサム・バーク審査委員長は「Riverina Angus」ビーフについて「本当に素晴らしかった。これらの受賞結果は卓越したビーフを生み出すために注がれる情熱、献身、そしてチームワークのたまものだ」と絶賛した。

また、JBS Australiaの

シェー・ジョンストン日本・中国セールスマネージャーは今回の受賞について、「当社のブランドビーフを支える厳格な規格に対するスキルと献身、洗練された家畜の遺伝子選抜、生産者パートナーが畜産動物を育てる上での丁寧なケア、そして当社のフィードロットで行っている給餌と仕上げへの深い敬意と献身の証しである」と胸を張る。

さらにJBS Australia ビーフ&ラムセールスの岩根大樹氏は「日本国内市場において、豪州産ビーフの魅力を広めることに誇りを感じている。日本の多くの皆さまに豪州産ビーフを楽しんでいただけていることは、本当にうれしいことだ」と強調した。



【東京食肉卸売市場】牛はもちあい、豚は弱もちあい

[牛]前週は、和牛は強もちあい、交雑牛はもちあい。3連休はぐずついた天気となったが最終日は晴れたこともあり、人の動きは良く観光地やショッピングモールなどの人出は多く、外食は好調だったよう。休み明けは上場頭数が少なく、また、月前半は仕入れを抑えていた問屋もあり、補充買いから、和牛去勢は4等級を中心にやや値を上げた。交雑牛は産地によっては引き合いが強いが、おおむね弱気配。

末端消費は鈍く問屋筋は在庫消化を図っている。引き合いは焼き材中心で、鈍いながらサーロインも動いている。交雑牛は全体的に動いてはいるが、末端と枝相場との乖離かいりが続いている。棚替えも始まり、和牛カタローズや交雑牛のモモ系に引き合いが出てきた。

今週は平均370頭ほどの上場が予定されている。稼働日が少ないことから、和牛去勢A5は2300～2400円、A4は2千～2100円、A3は1900～2千円、

交雑牛去勢B4は1600～1700円、B3は1500～1600円のもちあいか。

[豚]9月下旬に差し掛かっても猛暑日を記録するなど、残暑は厳しいが、来週以降はようやく暑さが少しずつ和らいでくると見込まれており、彼岸を境に気候も変化していきそうだ。

気温が下がってくれば、出荷頭数についても徐々に増えていくことが予想される。

前週は稼働日が少なかったため、全国と畜頭数が7万頭を上回る日もみられたが、連休明けの手当てなどもあり、週前半の相場は上昇傾向で推移。上物価格が700円を超える日もあったが、週後半には急落するなど、乱高下している。

今週も飛び石ではあるものの、祝日がある関係で1日当たりの頭数は増加基調が予想される。弱もちあい

【大阪市食肉卸売市場】和牛4等級は安定、豚出荷が増えても高値

[牛]和牛4等級の価格はほぼ横並びで、5等級価格に迫る、あるいは上回るほどの安定感をみせている。一方で和牛5等級は、4等級並みの価格のものも多く、前週は3連休もあったが、引き合い自体は強まっていない印象を受ける。

今週も祝日を挟むが、前週から動きにそれほど変化はないとみられ、和牛5等級については、引き合いは良くならないか。4等級は引き続き安定しそうだ。

交雑牛は、前々週に比べて前週の相場が上伸。引き合いの強まりが感じられた。変わらず強いニーズに支えられ、今週も高値を見込む。

[豚]一時に比べて価格は落ち着いているが、それでも高値が続いている。気温も低下しており、出荷頭数回復が予想され、安定した需要に支えられ、高値を維持すると見込む。

ロッテリア、「ロッテリアの夜バーガー」新登場

(株)ロッテリア(東京都港区、井上卓士社長)が展開する「ロッテリア」は、毎日17時からの夜限定メニュー「ロッテリアの夜バーガー」を発売した。「ロッテリアの夜バーガー」は、同店の定番商品やフェア商品を、夜ごはんとしてガッツリと食べたいときに満足できるボリュームで提供する、17時からの時間帯限定メニュー。

季節限定商品の「トリプル和風半熟月見 絶品

チーズバーガー」(税込み990円)に加え、同店の定番商品である「絶品チーズバーガー」の牛肉100%パティとチェダーチーズを2枚ずつ増量した「トリプル 絶品チーズバーガー」(990円)や、同じく人気商品の「絶品ビーフバーガー」のパティを2枚増量した「トリプル 絶品ビーフバーガー」(820円)も用意し、夜ごはんにぴったりの満足感あるラインアップとなっている。

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 9月19日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	2,967	2,379	1,935	-	-
		安値	2,131	1,836	1,891	-	-
		平均	2,392	2,146	1,915	1,837	-
	60頭	頭数	34	23	2	1	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,241	2,278	2,061	-	-
		安値	2,052	2,053	1,955	-	-
		平均	2,466	2,159	2,032	1,837	-
	132頭	頭数	96	30	5	1	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	-	1,524	1,433	
	7頭	頭数	-	-	3	4	
	雌 C	平均	-	-	-	1,260	
	1頭	頭数	-	-	-	1	
去 B	平均	-	1,671	1,606	1,431	-	
16頭	頭数	-	4	5	7	-	
去 C	平均	-	-	1,392	1,336	-	
4頭	頭数	-	-	3	1	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	343	824	-	(競り)	(相対)	
売買	281	1,067	166.0	-	23	50

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,383	2,116	1,634	1,415	-
	B	-	1,589	1,486	1,323	1,221
和 去	A	2,187	1,963	1,644	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,029	1,019
	C	-	-	-	-	954
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,681	1,547	1,348	1,082
	C	-	-	1,446	1,357	-
交 去	B	-	1,789	1,576	1,302	-
	C	-	-	1,398	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	626	818	602	648	610
	安値	562	540	497	464	369
	平均	605	575	548	547	529
	頭数	(17)	(422)	(382)	(134)	(112)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入相対	高値	-	792	770	508	572
	安値	-	792	540	508	486
	平均	-	792	665	508	556
	頭数	(-)	(5)	(2)	(3)	(13)

[大阪食肉卸売市場] 9月19日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,537	2,181	-	-	-
(頭数)	(16)	(12)	(1)	(1)	(-)
B	-	1,944	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(4)	(-)
和 去 A	2,430	2,072	-	-	-
(頭数)	(14)	(5)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,830	1,610	-	-
C	-	-	-	-	-
交雑去 B	1,900	1,749	1,628	1,481	-
C	-	-	1,578	1,398	-
豚	-	-	-	-	-

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	9月19日	9月18日	(9月累計)
豚	66,400	67,000	874,300
成牛計	4,330	3,940	61,470
和牛雌	1,160	1,140	14,940
和牛去勢	820	1,030	15,740
乳牛雌	870	760	10,250
乳牛去勢	300	370	6,030
交雑雌	550	360	7,020
交雑去	620	280	7,350

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 9月19日

東京	1,436円	(前日 1,501円)
大阪	1,574円	(前日 1,473円)

[豚・全農建値] 9月19日

上	中	取引頭数	市況
606円	584円	1,183頭	急落

と畜	牛 48頭	豚 108頭	牛概況	もちあい
売買	牛 103頭	豚 62頭	豚概況	まちまち

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 9月19日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	691 (691)	- (-)	6,062	-	もちあい
仙台 [中]	605 (605)	556 (561)	510	183	もちあい
栃木 [地]	618 (621)	554 (581)	1,654	40	もちあい
茨城 [地]	620 (674)	582 (641)	1,389	754	続落
群馬 [地]	592 (628)	478 (541)	2,109	424	続落
さいたま [中]	585 (622)	578 (601)	332	328	続落
東京 [中]	575 (646)	548 (611)	824	1,067	続急落
横浜 [中]	660 (701)	626 (667)	642	644	続落
山梨 [地]	- (684)	- (626)	118	18	休市
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	737 (732)	685 (663)	1,000	245	上伸
京都 [中]	641 (682)	651 (631)	117	38	もちあい
大阪 [中]	- (1,230)	- (494)	108	-	上場なし
神戸 [中]	688 (711)	678 (704)	-	52	下押し
岡山 [地]	709 (715)	693 (700)	338	374	軟調
広島 [中]	- (-)	- (-)	449	79	-
福岡 [中]	669 (669)	627 (634)	569	60	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 9月12日～9月18日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,524,530 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,241	1,382	1,488	1,372	74,018
うで	794	865	913	863	114,681
ロース	1,172	1,269	1,350	1,263	144,266
ばら	1,252	1,328	1,404	1,326	140,065
もも	799	809	853	820	181,710
ヒレ	1,179	1,318	1,494	1,292	8,243
セット	1,026	1,103	1,131	1,092	861,547

◇近畿圏 総重量 681,680 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,350	1,419	1,469	1,412	52,758
うで	744	815	896	833	98,503
ロース	1,188	1,285	1,358	1,288	94,736
ばら	1,350	1,381	1,404	1,385	133,237
もも	758	785	864	802	164,135
ヒレ	1,274	1,312	1,404	1,339	9,227
セット	1,017	1,070	1,227	1,099	129,084

[食鳥正肉日経相場] 9月18日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	680	754	953	232
ムネ	511	579	740	203

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	679	755	1,030	3
ムネ	519	554	654	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 9月18日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	991	796	550	600	650
安値	650	532	290	360	350
平均	763	594	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

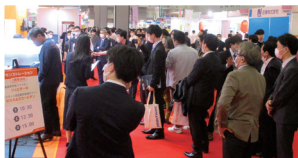
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

イベント

国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、プランケット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャンネルが多様化する中で、その時々のもも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総菜の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

教材&レポート等

あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男著
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

知識を豊かにする

食肉用語事典(新改訂版)

昭和51年の初版から平成22年の新改訂版へと続く、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語を採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995